薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

2024年
No.4
事例1

疑義照会・処方医への情報提供

空腹時に服用する薬剤の用法

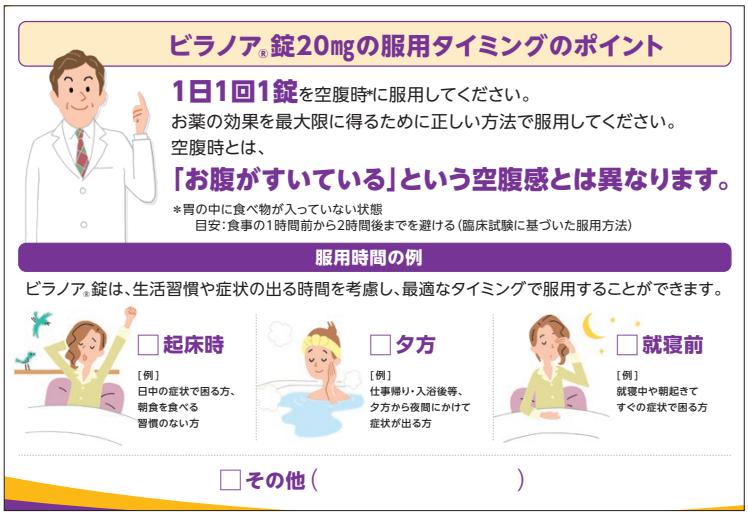
事例

【事例の詳細】
患者にビラノア錠20mg　1日1回1錠夕食前が処方された。ビラノア錠20mgは空腹時に服用する薬剤であるため、処方医に疑義照会を行った結果、用法が寝る前に変更になった。患者に薬剤を交付する際、ビラノア錠20mgは1日1回寝る前に服用すること、夕食から2時間以上空けることを説明した。
【推定される要因】
処方医は、食前30分の服用であれば食事の影響を受けないと考えた可能性がある。
【薬局での取り組み】
食事の影響を受ける薬剤をリストアップし把握しておく。

その他の情報

ビラノア錠20mgの添付文書　2021年7月改訂（第1版）（一部抜粋）
16.2.1 食事の影響
健康成人男性20例にクロスオーバー法で空腹時及び食後（高脂肪食）に本剤20mgを単回経口投与したとき空腹時に比べ食後投与時のC_{max}及びAUC_{0-t}はそれぞれ約60%及び約40%低下した。

＜医療関係者が使用する患者説明用資材＞
ビラノア錠20mgの服用方法※（一部抜粋）　大鵬薬品工業株式会社の許諾を得て掲載



※大鵬薬品工業株式会社のホームページ（参照2024年3月6日）

事例のポイント

●空腹時に服用する必要がある薬剤が処方された際、薬剤師は薬剤の特性を考慮したうえで、患者の生活状況を確認し服薬時点の妥当性を検討することや、必要に応じて患者の生活状況に合わせた適切な服用時点を処方医に提案することが重要である。
●一般的に、「空腹時服用」は食事の1時間前から2時間後までを避けて服用することを指すが、製剤によっては服薬前後に食事を避ける時間が異なるものもある。食事の影響を受ける薬剤をリストアップし、その特性を薬局内で共有しておくことが望ましい。
●患者の服薬コンプライアンス・アドヒアランスを維持するため、空腹時に服用する必要がある薬剤を交付する際は患者に服用する時点を伝えるだけではなく、「食事の影響を受けるため空腹時に服用する必要がある」という理由を説明することが重要である。患者の理解を促すため、製薬企業が提供する患者説明用資材などを活用することは有用である。

公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区神田三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。